

講話「いろくの子ども」Ⅲ

倉橋惣三

氣の鈍い子

(二)

子供の世界は活潑に元氣に色々なこゝに心を働かして居るのが特色であります。時によるこゝさうでないお子さんがあります。勿論其非常に甚しいのになるこゝ白痴さか極度の低能兒さか云ふこゝになります。それは私の今度お話しやうとする問題の外に置きます。それ程甚しくなく普通のお子さんで、さうも他のお子さんに較べるこゝ何さなく總てが鈍い、傍で見て居つてもごんよりしたやうなぼんやりしたやうなお子さんがあります。斯う云ふお子さんは詰り色々のこゝに付て興味がないのであります。何事が起つてもさうも何が面白くないのかボーンと平氣なやうな風をして居ります。傍から見ても洵に詰らない、氣の抜けたやう

な氣が致しますが、子供自身さしても甚だ詰らないものであるやうに見られる。斯う云ふ子供は單に物事が面白くない、他の子供が次から次へに色々面白い生活に生きて居る中に、其子一人はぼんやりと暮らして居るこゝ云ふ事だけでも洵に氣の毒であります。殊に子供は周圍から絶え間なく色々な事を學んで行かなければならぬ、其學ぶには外から突ついて教へ込まれて習ふものではないのであります。自ら興味を以て外に働きかけて行くのでなければ本統の智慧は増しませぬ。斯う云ふ子供は其働きかけて行く興味が少ないので自然智慧にも遅れて來るやうな不幸があらうと思ひます。幼稚園や學校などで大勢の子供の中に斯う云ふ子供が二三人居るこゝ、實にもさかしくなる程其子供の生活に力がない、傍で見て居つてさうかして之を働かして總ての事に面白くしてやらうと思ひましても、さうもそ

れに鋭く反響して來ないのであります。勿論斯う云ふ子供はどちらか云へば人の好い穩かな性質の子供が多いのでありまして、尙更周圍の者としてはいづらしくなる譯であります。

そこで斯う云ふ子供は要するに興味がないのでありますから、斯う云ふ子供の心持を理解するには興味云ふものは一體さう云ふものであるか云ふことを考へなければならぬ。興味云ふのは勿論外にあるものに反應して行く働きでありますが、近來の解釋に依るに唯外から引出されて來ることばかりではないのであります。寧ろ子供として其心の中に有つて居る所の自然の欲求要求、さう云ふものが外にあるものに合して來て、そこに色々の興味が出るのであります。或る學者は興味云ふは恰度活潑な食欲を有つて居る者が飢を感じるやうなものだまして居ります。即ち健康體は絶えず榮養を取らなければならぬ働きをして居る。其時に空腹を感じるに其空腹に基いて盛んなる食欲が起ります。それと同じやうに健康なる精神は自ら其心を養ふ爲に色々なものを外から取るやうに要求して居る。それ

が與へられないと内から精神上の食欲が活潑に動き出して來るのであります。そこで大人が面白いものは面白いと云ふやうな、そんな冷淡なこころでなくして、有ゆるものに興味を働きかけて行く云ふ言葉が適當であります。興味云ふものをさう云ふ風に考へて見るに、其興味の缺けて居る子供云ふのは、詰り精神の欲求力が鈍いのであります。其心の中に色々なものを要求して行く力が足りないのであります。そこで其興味を誘ふ爲には其鈍い要求力を刺戟してそれを強めて行かなければならぬ。所で甚だ通俗過ぎたお話をするやうでありますが、吾々の食欲云ふものはさうして活潑に起るか云ふ申せば、勿論元來は本能でありませうけれども、吾々が食物のうまい味を知つて居るに段々其うまいものが欲しくなると同様に、一度知識の興味を味つた者は次々に面白い其知識を要求して來る云ふ關係になります。又一面に吾々の食欲は吾々の運動活動に依つて從來ある所のを消化した後起るのであります。消化する力が弱ければ少しかりのものが腹の中に停滞して更に新しいものを求める云ふことがない。之に反してゲング

ン消化して行く者は次々に要求を加へて来る。消化は身體の運動又は消化器の活動に依つて起るものでありませうが、同様に精神上の活動、其活きくした活動がないミ矢張り次から次へミ求めて行くことが出来ないものであります。或る種類の子供は少しばかり習ひ覺えた其知識を胃の中にもちこたへて居るやうな、詰り停滞して居るやうな、直きに飽和してしまふやうな状態になつて居ります。そこでさう云ふ子供の精神には絶えず面白いものが世の中に澤山あるミ云ふ経験を味はせ同時に次から次へ其精神を活動さして飽和しないやうにして行かなければならないのであります。

二二

そこで大體さう云ふ解釋を致して置きまして、僅少し違つた方から見て参りますミ、總て子供の色々な性質は其體質、體の關係に大いに影響することは勿論申すまでもありません。先號に考へて参りました色々な子供も皆其身體的原因が大いに關係致して居るのであります、而も今日考へて居る此氣の鈍い子供ミ云ふのは殊更身體的影響が多

いやうであります。例へば體が全體ミして健康を失つて居る、何處に原因があるのか私共素人には判りませぬが、全體ミして身體の健康力が虚弱であるミ云ふやうな場合には、其子供は矢張り氣重にも鈍くなるものであります。或は又極く一時的なこころミしても睡眠の不足ミ云ふやうなこころは非常に斯う云ふこころに關係して来る。私共が時に幼稚園や學校なごに於て甚ださんよりした顔付をして居る氣の抜けたやうな子供に會ひまして、なぜ斯う云ふ風だらうかミ色々調べて見るミ、其子供の家庭生活に於て睡眠上の非常な不規則或は缺乏ミ云ふやうなこころが原因して居るこころを發見する事があります。吾々でも睡眠不足の後は氣が鈍いのであります、殊に子供の場合には知らず識らずの間にそれが蓄積して慢性的に睡眠不足の状態を生ずる。さう云ふ場合には實に晝間の生活が鈍くなつてしまふ。のみならず其子供の精神性格全體にさう云ふ傾向を付けるミ云ふこころもあります。或は又私共専門外でよく判りませぬが、例へば扁桃腺が悪いミか或は鼻の中に腺狀殖生が出来て居るミ云ふやうな場合には著しく斯う云ふ状態になるやうで

あります。さうしてこんなに氣が鈍いのであらうか云ふ譯で、それ／＼の専門のお醫者さんに御相談致しまして、一寸した手術に依つて其扁桃腺を除いて戴く或は鼻の中の腺狀殖生を除いて戴く、さう云ふ風な一寸した手術に依つて見違へた程活き／＼した活潑な子供に變るゝことが洵に珍しくないであります。こんなことで子供がよくなるものならば、私共は實に其點に注意をしなければならぬ。一寸した注意で以て我子の性格が明るくなり晴れやかになり面白くなり活き／＼して来る云ふのでありますならば、其子供の現在の幸福の爲にも將來の發達の爲にも、總て子供の身體の注意に付てそれ／＼専門家に御相談をする必要が屢々あります。

(三)

併ながら單に斯う云ふ生理的の或は身體的原因ばかりではない。其子供の境遇が斯う云ふことに關係して來るゝことがあります。一概にも申せませぬが、其家庭生活が甚だ單調乃至生活其ものゝ空氣が鈍い云ふやうな場合に於て、其子供の心がさう云ふことになるのは免れないことで

あります。家庭生活の單調云ふことは、さう云ふ意味が甚だ判りにくい言葉を使ひましたが、私共が注意しなければならぬ簡單な一つの場合を申上げて見るゝ、或る種類の家庭に於ては大人が悉くむつつりした、大人同志の生活が極めて面白くなく行はれて居る場合があります。さう云ふことは想像して見ても不愉快なことでありますが、家族同志が殆ど朝から晩まで一言も口をきゝ合はない、朗らかな笑聲が其家庭に起らない、お父さんもお母さんも、又隣居所の方でも何だか重苦しい空氣に互が隔てられて居る云ふやうな家庭がある。古い御家庭或は何か特別な御事情のある御家庭にさう云ふことを屢々見るのであります。それは其御家庭として色々理由のあることでありませうが、さう云ふ空氣が其中に育つて居る子供に對して如何に悪い影響を與へるか、是は大なる問題になります。さう云ふ家庭の空氣が所謂子供の道德的發達の上に多くの害を與へる云ふことは申すまでもないことでありますが、是は今私の問題の少し圈外のこゝとして、單に子供の心が絶え間なく働き動く云ふだけの意味に於て、斯う云ふ家庭は甚だ

不利なのであります。恰度新鮮なる空氣の流通して居る、明けはなれたた窓の多い部屋の中に居る者は自ら快活になり、空氣のぎんよりした重たるい其中に居る者は精神が鈍くなる云ふことは誰も知つて居ることであります。況して人間的に醸し出される所の其鈍い沈滞した家庭の空氣云ふものは子供の斯う云ふ傾向を屢々助長するのであります、或は又是少し變つて大人同志は勿論そんなに苦蟲を潰しては居ない、併ながら總て其家庭の生活は大人本位で子供の存在に付て周到な注意を拂はない、其處で大人は大人同志色々な生活を致して居りますすけれども、有らゆる問題に對する見方も話題も、總てが子供の精神を刺戟して行くやうな性質のものでないのであります。さう云ふ時に其

子供は折角大勢の家族の中に居りながら自分に適する世界を其處に有ち得ない。斯う云ふ場合には全く人の居ない荒野にでも居る場合と同じやうなことになる。のみならず其一人の世界に若し居りましたならば、其處で又自ら色々なものを求め出して來るでありませうが、人が居りながら自分とは無交渉に總てが行はれて行く云ふやうなこ

は、精神の活動に對して洵に有害な結果を來するのであります。子供を少しも構はない家庭に於て實に詰らなさうに日を送つて居る子供を見るに、私共は單に子供が可哀さう云ふやうな感情的なことばかりでなく、其子供の性格を傍から育て、行く力の缺けて居ることを歎かはしく思ひます。斯う云ふ原因が色々相俟つて其子供をさう云ふ風にすると思ひます。

(四)

偕斯う云ふ重苦しい鈍い子供は知識の上に於て多分遅れて居ります。必ず云申しても宜い程遅れて居りますが、中には外から見て極めて鈍さうであつて實は心の中で動き働いて居る子供もあります。或は天才的な片寄つた子供、或は特別に重厚な、所謂膽汁質粘液質か云ふやうな子供であるに、心の中は其ものミして動いて居つて、見かけだけが鈍い云ふことでもないではない。さう云ふ場合は唯外側が賑かで快活であるよりも本統の値打があるのかも知れませぬ。けれどもさう云ふ風な子供は寧ろ例外で、一般としては矢張り子供は子供らしい快活さを以て生長さして行き

たいのであります。又其外見が鈍くて心の中は働いて居る
ミ云ふやうな子供でも、其點に於ては將來必ずしも憂ふべ
きことでないかも知れませぬ。大いに大成するかも知れま
せぬ。けれども時に依るミ子供の時を快活に過せない爲に
人生の晴れやかな、心持の良い生活の味ひミ云ふものを得
ずに終ることもあります。即ち知識的に申せば必ずしも快
活な子供でなければならぬミ云ふ譯ではないけれども、私
の最も心配するのは斯う云ふ外のことに付てさんよりさし
た、自分ミ其問題の間に始終薄皮を一枚置いたやうな疊
つたさんよりした生活をして居る者は時に單に物事に對し
てさう云ふ状態であるばかりでなく、人間的に無感覺無感
興無感激ミ云ふやうなことが起るのであります。私は時々
さう云ふ子供を見て、人間界に共に暮らして居りながら傍
の人の心持に對して何等共に感ずるの鋭敏さなく、傍の人
の氣持に依つて或は喜び或は悲み、自分の心をも激さして
行くミ云ふやうなことのない其子供の生活を實に人間性の
教育の爲に甚だ困ることだと思ひます。人間性の生活ミし
ては色々激し過ぎて過ちもありませう。或は餘計な同情を

有ち過ぎて過ちもありませう。感情の狂ひ過ちミ云ふもの
は大いに氣を付けねばならぬことではありますが、それより
ももつミ困ることは人間的冷淡、即ち周圍の人の感情生活
に對して何等の感激を起さないことであります。石像の如
き木像の如き、泥で拵へた人形の如き、さう云ふ生活を續
けることは實に人間ミしての本統の生活を發達せしむる所
以でないと思ひます。學校なきで斯う云ふ種類の子供が或
は他の氣のきいた子供よりも時に出來が悪いミ云ふ位なこ
ミは私共そんなに問題にしないけれども、傍の人或は親先
生或は友達の自分に對して有つて呉れる所の好意其ものに
對してさへも極めて無感覺にしろんミあつけらかんミして
暮らして居るやうな状態を見るミ、實に困つたことだと思
ひます。即ち氣の鈍い子供ミ云ふのが單に知識的意味だけ
に止まるならば、私共はそれ程深く此問題を考へないけれ
ども、人間的無感覺ミ云ふやうな所にまで行く場合を考へ
るミ、實に心配になります。

そこで斯う云ふ種類の子供があつたならば、之を如何に
して教育して行くか、之に付ては繰返して申すやうであり

ますが、先づ第一に健康に就て餘程細かに注意しなくてはならぬ。是も素人流の判断では付かない細かい内部的の原因があつたり致しますから、専門家に周密な診断を請はなければなりません。其上に周圍から絶え間なく其知識的興味を刺戟して行きまして、色々世の中に面白いことがある。色々珍しいことがある云ふやうなことを絶えず傍から経験させるやうにし向けなくてはならぬ。子供の教育に就ての近來の學說に依るに、餘り傍らから色々なことをしない方が宜い云ふことになつて居る。子供自からの所謂自發性を基としてそれに此方から其要求に應じて何かして行けば宜い云ふのでありますが、それは健全なる活潑なる精神を有つて居る子供に對して言ふのであつて、斯う云ふ鈍い子に對しては其自發性其ものを引出してやることに非常な努力をしなければならぬ。時に依るに子供の自發性を尊重するに云ふ、所謂新教育手段を執つて居る教場などで斯う云ふ鈍い子供の一人二人が何時でも置き去りにされて居るやうな悲しい場面を見ることもないのではないのであります。是は單に健全なる精神の子供を標準として、斯う云ふ

子供に對する特殊の取扱ひを忘れて居るので、是が甚だしくなつて白痴とか低能兒まかになれば、又是によく氣を付けるのであります。其處までは行かない輕い度に於ける精神の鈍い子供に對しては見落されたりするのは洵に遺憾であります。家庭に於ても斯う云ふ子供の爲めには普通の子供よりも或は面白い所へ連れて行くとか或は面白い物を與へてやるとか、さう云ふ積極的に引張つて行く所の手段に力を盡さなければならぬ。大人が子供に對して無暗に干渉することは悪いことでもありますけれども、興味を養ふ上に十分の膳立をしてやることは幾らしてもし過ぎないと思ひます。尙ほ又前に申した其精神的に人間的反應が鈍い云ふやうな傾向のある子供に對しては特に注意して行かなければならぬ。之に對しては特にさうするに云ふ難しい方法もないやうに思ひますが、私が極めて平凡にして然も極めて効果のある一つの方法を考へて居ります。方法に云つて吹聴する程のことはありませぬが、詰りさう云ふ子供に對しては大人が努めて話かけるのであります。或は話かけて其子供の話を聞いてやるのであります。言ひ換へれば

子供ミ大人ミの個人的對話を屢々するのであります。多くの場合に於て家庭なごで子供に向つて色々話をしてやる親は澤山ある。澤山ミ言へないかも知れませぬが、それも随分面倒なごであります。まあそれはする人がないミは言へない。併しながら子供ミ個人的對話をして色々此方の言ふごも言ひ、向ふの話も聞くミ云ふやうなごもをしてやる人は意外に少いのであります。殊に其子供が氣のきいた次から次へ奇抜な話でも持出し奇警な觀察を表して來るミ云ふやうな場合に於ては大人も面白く相手になりませんが、今茲で考へて居るやうな鈍い子供は其話もボツリボツリミ實にまごろしい話方をします。又其言ひ方が何等の生氣濺たるやうな所もないやうな物の見方感じ言ひ方をするに違ひない。詰り面白くないからごうも其相手になるごが難しい、けれどもさう云ふ子供に對しては何より一番宜いごは何でも相手になつて聞いてやるごであります。鈍い子供ミ雖も鈍いながらに色々な心持が微かに心の底に動くごは屢々あります。或はドン／＼口を突いては出ませぬけれども、物を言ひたけにして居るごもありあります。さう云ふ場合に此方から上手に話かけて行つて其言

はんミするごを十分に引出して聞いてやるミ云ふごは其子を育て働かして行く上に此上もない宜い方法であるミ思ふ。世の中には大人同志の社交に非常に上手な人がありまして、實に上手に人に話をさして行き、人の話の緒口をほざいて行くミ云ふやうな力のある人がありますが、其力を以て子供に對して働いて行くごは實に宜いごであるミ思ひます。大した話でなくても宜いのであります。涼み臺の話でも夕食時の話でも散歩の間の話でも、何かしら子供の相手になつて子供の話を次から次へミ引出して、多少詰らないごでも面白さうに聞いてやる。そこに子供は自分の心をぎん／＼出して行く所の生長の機會を與へられるミ思ひます。斯う云ふ子供は餘程傍から注意しないミ引込思案で、遂には他の兄弟が親に大いに可愛がられて居るに拘らず、さう云ふ子供だけは何時でも何ごもなく除け者にされて居るミ云ふやうな實例もあります。其子を憐み其子を本統に育てたいミ云ふ真心からして、私共は普通の幸福な子供よりも更に數倍の注意を斯う云ふ子供に向けてやりたいミ思ひます。